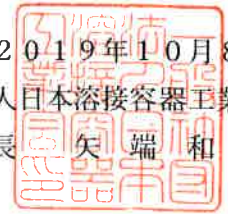


LP ガス販売事業者殿

2019年10月8日
一般社団法人日本溶接容器工業会
会長 矢端和之



LP ガス容器に係る安定した物流を確保するためのお願い

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当工業会では、容器の軽量化、バルク貯槽の導入を始め、工業会所属各社の企業努力による物流合理化、効率化、コスト低減に取り組んで参りました。

しかしながら、物流業界でも人手不足が深刻な問題となっており、充填所における各社の容器の受渡しが目詰まりが進んでいない状況が見られます。

このような状況を改善しなければ、現在かつ将来に亘って安定供給を行い得なくなる可能性があり、重大な支障となることが懸念されます。

つきましては、充填所における容器受渡作業の分担及び容器物流の改善策に関し、下記要望についてご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

ただし、企業間契約等を締結する場合には各社の諸事情によりこの要望事項に該当しないことがあります。

1. 荷卸作業

- (1) ドライバー不足の中、手卸し作業である容器の運搬が敬遠され、運送車両の確保に支障が生じています。受渡条件は、トラックが充填所に到着後、車上渡しとし、荷卸作業は受入側の作業としていただきたい。
- (2) 容器納入時に充填所構内2、3カ所に分けて卸す場合があり、積荷の固縛、トラックの移動等に時間を要するため、荷卸箇所は、構内1カ所に集約していただきたい。
- (3) 納入車両は容器納入後に、容器メーカーに戻らないため、梱包材をメーカーに持ち帰ることが出来ません。荷の外観品質を守る梱包材は受入側での処分実施にご理解をいただきたい。

2. 効率的配送

容器の繁忙期は冬季に偏っています。夏場と冬場の出荷量比率1：1.8となっています。繁忙期には出荷量の増加により車両の確保が困難になります。

繁忙期以外の納入で年間平準化した輸送量の計画にご協力いただきたい。

3. 輸送環境の縮減に対応した配送

- (1) 近年の4t車両は安全装置の装備により、最大積載量が3.5tを下回る車両が主流となっております。その為、従来は1車両で運んでいた納入数を運べる車両が少なくなっています。分納する場合には

輸送コストが高くなるとともに、納入日にズレが生じご迷惑をお掛けすることが想定されます。
効率的なトラック一車単位で納入をお願いしたい。

(2) 少数の受注について小口運送業者（路線便）に配送を依頼していますが、一回当たりの配送には数量
又は重量に上限があるため複数の小口運送業者に配送を依頼する必要があります。

また、小口運送業者は他の荷物配送もあるため、1日に配送できる数量に制限があります。

その為、納入が分納になることをご理解いただきたい。

(3) 全国で運行している運送車両の内、運送業における平ボディ車とウイング車の保有比率は1:2.6とな
っています。

平ボディ車は鉄鋼材料の輸送のために専用業者が保有している割合が高く、一般貨物を運送する平ボ
ディ車はウイング車と比較し確保しにくい状況となっています。

保有台数が比較的多いウイング車での納入に対応出来るよう、納入場所等の確保にご協力いただき
たい。

以上